



No.479

## 創学舎主催 私立高校合同説明会、開催！

去る九月十五日（月・祝）午後、**柏の葉カンファレンスセンター**（柏の葉キャンパス駅徒歩二分・三井ガーデンホテル二階）にて、創学舎主催の「**私立高校合同説明会**」が行われました。三連休の最終日での開催ということもあり、来場者は昨年よりも増加、**約三百五十人**にのぼり盛況のうちに幕を閉じることができました。

当日ご参集いただいたのは、数年ぶりの参加となる足立学園高等学校をはじめ**十五校**の先生方。各高校二十五分の時間で、最新ニュース・建学理念・コース紹介・学校行事や部活動の案内・大学合格実績・推薦基準など、生徒・保護者が知りたい情報をコンパクトに提供していただきました。ルーム1からルーム4まで**四つの会場で同時進行**というイベントの形式もあって、ライバル校同士互いを意識しながらご担当の先生方のプレゼンも熱を帯びたものになりました。

今年度は各高校、特に流通経済大学付属柏高校の推薦制度に大きな変更があったこと（併願推薦の廃止）も影響し、昨年度から大きく参加者が増加した高校がありました。特に東洋大学附属牛久高校（昨年度比十五十九人）、土浦日本大学高校（昨年度比四十二人）には、注目が集まっているようです。今後受験校を絞っていく中で、参考にすべき数字の一つだと言えるでしょう。

また、今回は中三生の参加だけでなく、**中一、**



※参加者が多く見込まれる、二松學舎大学附属柏高校、専修大学松戸高校など6校は、2回に分けて実施しましたが、東洋大学附属牛久高校、流通経済大学付属柏高校など7つの会場で、立ち見になる程盛況でした。また、私立高受験の広域化を反映し、駒込高校や春日部共栄高校なども参加者が激増しました。

**二生の参加がかなり目を引きました。** まだまだ高校受験を他人事のように捉えがちな生徒も多い中、それを具体的に、自分事として考える良いきっかけになったのではないのでしょうか。高校、大学、さらにその先を見据え、早いうちから目標を明確にし、行動を起こせば、その分他の受験者よりもリードできます。このような機会を、目標を持つて日々を過ごす足がかりとしてください。（右下）

【参加校（担当者）一覧（五十音順・肩書略）】●足立学園高等学校（八木先生）●江戸川学園取手高等学校（熊代先生）●春日部共栄高等学校（馬崎先生）●光英VERITAS高等学校（本間先生）●駒込高等学校（水澤先生）●芝浦工業大学柏高等学校（辻先生）●西武台千葉高等学校（峰岸先生）●専修大学松戸高等学校（松垣先生）●中央学院高等学校（森田先生）●土浦日本大学高等学校（小林先生）●東洋大学附属牛久高等学校（毛塚先生）●二松學舎大学附属柏高等学校（坂詰先生）●日本体育大学柏高等学校（稗方先生）●流通経済大学付属柏高等学校（長谷川先生）●麗澤高等学校（三宅先生）

## 私はHSPです、多分。（その五）

初めて読まれる方もいると思うので、HSPの定義から。「非常に感受性が強く敏感な気質をもった人」という意味です。英語では Sensitive Person. 病気ではなく、あくまでも氣質にすぎません。

前回は②「いじられて受け流せず嫌な気持ちを抱える」に焦点を絞りました。HSPの人にとっては、世の中はチクチクする言葉であふれています。具体例を追加します。「兄や姉が弟や妹に」そんな点をとってはずかしくないのか。「親が子に」うちの一族はみんな成績いいんだよ。悪いのはお前だけ。親類に顔向けできないよ。「高校はどこにする？ えっ、〇〇高校？ そんなところ行く価値はないよ！」「あんたは、何やつでもダメだね。」本来は心やすらぐ場である家庭の中でもこんな言葉が飛んできたりします。親や兄弟姉妹が自分の成績や学歴に自信をもっている家庭に時々みられます。いずれも生徒達に取材して書きとめてある事例です。こういうことを家庭でいわれている生徒は、家の中でもビクビクして生きることになります。また、成績のことで何かいわれるのではないかと暮らします。部活でもありません。「いやなことを引きずって集中していないとき」やる気あるのか！みんなの足を引っばるんじゃないねーぞ！」「部活を楽しみたい人が、ガチでやりたい人から」お前みたいな奴がいるから勝てないんだよ！」「下手くそ。本当にセンスねえな。」高校の文化祭や球技祭の「打ち上げ」でもこんなことがあります。「塾の授業を優先して不参加だ」とつきあい悪いな。もっとみんなのことを考えろよ！」「三千円ぐらいかかるが、そんなお金

はないので断ると」協調性がないよね。」悔しくて「クソっ！」と思えてがんばれる人は問題ありません。「切り返せる」人も問題ありません。「受け流せる」人も問題ありません。問題なのは、HSP的な人の場合です。いじられたときの言葉を忘れません。ふとしたときに、思い出し、嫌な気持ちになります。「また同じようなことをいわれたらどうしよう」と心のどこかで不安に思っています。そして言われっぱなしの自分にも嫌気がさしています。

授業中はどうです。「テストの成績」のことを考えてしまいます。「部活でまた何かいわれたら」と思っている心配が伝わります。休み時間に少しいじられたことを思い出して嫌な気分を抱えています。集中できていないことは自分でも分かっているから「指名されて答えられなかったらどうしよう。」と下を向いています。教師は三十人以上の生徒を教えているわけですから表面的なことしか見えません。こんな状態の日々が多ければ成績アップも何もあつたものではありません。

部活に出ても心のもやもやは続きます。好きで入った部活なのになかなか楽しめません。家に帰れば勉強や成績のことをいわれるのが心配です。こうして「自己肯定感の低さ」へとつながっていきます。「何もできない自分、がんばれない自分、言われっぱなしの自分」が自己イメージとなっていくます。一方で自己愛はあるので「何とかしたい」「もっといい成績をとりたい」「みんなに認められたい」などと心の中では思っています。ただ、どうしたらよいのか分からずにいます。

では、どうすればよいのか。何度も述べてきたことですが、まず、二十七個を読んで共感するものを探してください。そして、嫌な思いをしてい



るのは自分だけではないことを知ってください。  
親兄弟姉妹、友人と一緒にチェックしてみてください。  
さい。（もし、家族が具体例で挙げたような追及を  
くりかえすようなら、それはすぐやめてくださ  
い。）

さて、次は第四段階……逃げ方、脱出の仕方にな  
りますが、その前に少し寄り道をします。「親の  
あり方」についてです。一般に就職すると（バイ  
トでも）一定期間の研修があります。自分の娘が  
学生時代に大手量販店のバイトをしていたとき、  
その研修マニュアルを見せてもらったことがあり  
ますが、その厚さと細かさにびっくりしました。  
実際に就職してからも同様です。生きていく上で、  
働くことと（家庭をもったら）家庭を維持してい  
くことは最も大切なことです。ところが、働くに  
あたつての研修はありますが、家庭や子育ての研  
修はありません。家庭や子育てについては各自が  
自分の経験と直観でやっているのが実情です。

勿論、マニュアルなどないし、あつたとしても  
その通りにやればうまくいくものではありません。  
ただいえることは、勉強や進学に関して上から目  
線で子供をいじる、子供を叱るなどの繰り返しは  
絶対によくないということです。「親のやり方」親  
業」についての本はたくさんあるので、お読みに  
なることをお勧めします。**何といつても家は落ち  
着く場所でないといけないのですから。**

（以下来月号に続く） （小林）

## 創学舎主催 百人一首大会

去る九月二十三日（火・祝）午後、小学生対  
象百人一首大会が行われました。結果から述べ  
ると大盛況でした！参加して下さった方々、

誠に有難うございます。

当日は、全教室から申し込んでくれた小学生  
が柏教室に集まり、合計十八名の参加となりま  
した。柏駅の方へ出迎えに行くと、百人一首の  
本を片手にこちらへ向かつてくる子を発見。創  
学舎では「勝敗」よりも「**日本の歴史や文化に触  
れて想像力を働かせる**」ことや、「**日本の伝統文  
化に興味を持つきっかけになる**」こと、そして  
何より「**楽しむ**」ことを重視してきましたが、生  
徒たちはかなり準備をしていたようで、得意札  
の話や、どれくらい覚えてきたかという話をし  
てくれ、熱意と気合が伝わってきました。



さて、今大会は**一試合十五分を三回戦**行いま  
した。いざ始まると、楽しく雑談をしていた時  
とは違い、皆真剣な眼差し。試合はテンポよく  
進み、初句が詠まれた段階でバシッと取る子も  
いれば、身を乗り出して最も遠い位置の札を取  
る光景も見られました。上の句が詠まれたタイ  
ミングで取れてご満悦な子、自分の目の前の札  
を取られたり、得意札が取れなかったりと悔し  
そうな子、様々な感情が見えました。得意札が  
取れなかった子に話しかけてみると、お手付き  
をして枚数を減らしたくなかったとのこと。そ  
れだけ真剣に、勝ちに食欲に臨んでくれるのは  
嬉しいですね。

無事三試合終了し、集計作業をしている間に

ちよつとしたクイズ大会も行いました。百人一  
首にまつわる歴史や地名等、少しでも興味関心  
を持つてもらうためのクイズです。さすがに小  
学生だと知らないことも多いので、○×形式で  
行いました。こちらも大盛況で和気藹々と楽し  
んでもらえたようです。

そしていよいよ表彰式。三試合の合計獲得枚  
数が最も多い人には最優秀賞、二番目の人には  
優秀賞、三番目の人には敢闘賞、そして九月と  
いうことで九位の人には長月賞、一試合で獲得  
枚数が最も多かった人には技能賞が与えられま  
した。そこで、賞を取った生徒を一番近くで見  
ていた、審判を務めた先生方に当日の生徒の様  
子聞いてみました。

**最優秀賞・技能賞 流山おおたかの森教室・小六 Yさん**

Yさんは、流山おおたかの森教室のエース的  
存在。ほとんどの歌を諳んじており、ふだん教  
室でのかるた取りでも、圧倒的な力を見せてい  
ます。ただ、当日の畳上には、好敵手となる柏  
教室の小六のSさんがいたため、試合は目まぐ  
るしい展開となりました。上の句が詠まれてい  
る途中で札が取られることも多く、他の畳より  
いち早く審判の手が挙がることが続きました。

互いに相手の陣の札を取る、白熱した攻防は、  
傍で見ても手に汗握る素晴らしい戦いだっ  
たと思います。

（片岡先生）

**優秀賞 我孫子教室・小五 Iくん**

我孫子教室の生徒が二名しかいなかったこと  
もあり、試合前は緊張した様子。しかし、試合  
が始まると様子は一変。前回大会でも優秀賞を  
獲得した実力を遺憾なく発揮し、一試合目から

二十九枚もの札を獲得。同じ畳で試合をした対  
戦相手も「すごい！」と驚く大活躍。上の句で  
札を取ることも多く、その度に小さな拍手が起  
こっていました。対戦相手が二名とも女子だっ  
たので、札を取る手はソフトタッチ。試合中  
でも相手を思いやる姿はMLBで活躍する大谷翔  
平選手に重なるものがありました。二年連続の  
優秀賞。ラストイヤーとなる来年は最優秀賞に  
手が届くことを願っています。

（高寺先生）

**敢闘賞 流山おおたかの森教室・小四 Sさん**

一回戦目から積極的に札を取っていたSさん。  
上の句だけで札を取る姿からは、日々真剣に百  
人一首に取り組んでいることが窺えました。

二・三回戦目になるとそのアグレッシブさに  
さらに磨きがかかり、畳を縦断するように体を  
目一杯伸ばして札を取り、会場を沸かせた場面  
もありました。

今回の敢闘賞受賞は、きつとさらなる自信へ  
とつながることでしょう。

（平野先生）

**長月賞 柏教室・小五 Mさん**

優しい笑顔が印象的なMさん。その優しさか  
ら、札を取る動きもとても控えめ。それでも試  
合前の一分間では自分が得意な札の場所を一生  
懸命覚えていて、内に秘めた闘志は十分な様子。  
一回戦と二回戦は周囲の迫力に圧倒され、思う  
ように札が取れていないようでしたが、最後ま  
で集中力を切らさず、驚異の粘り強さを発揮し、  
三回戦は二十二枚の札を獲得。有終の美を飾っ  
ていい笑顔を見せてくれました。

（高寺先生）

やはりどこも盛り上がっていた様子がか  
がえますね。参加して下さった方々有難うご  
さいました。

（宇井）